

研究種目：基盤研究（B）  
研究期間：2006～2008  
課題番号：18320134  
研究課題名（和文） 現代日本における国際結婚増加の要因とインパクト  
に関する地理学的研究  
研究課題名（英文） Geographical Studies in Factors and Impacts of International  
Marriage Increase in Contemporary Japan  
研究代表者  
石川 義孝（ISHIKAWA YOSHITAKA）  
京都大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：30115787

研究成果の概要：本計画では、主に日本を舞台とした国際結婚に焦点をあて、地理学的視角が有効なことを確認した。すなわち、国際結婚には明らかな地域差があり、その有力な地理的要因として性比の空間的不均衡ほかがある。また、仲介業者が重要な役割を果たしており、わが国で報告されている件数の少なくとも3分の1が、業者婚と推定された。現代日本における国際結婚は誠に多様であり、こうした多様性の理解には国際比較も重要である。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 18 年度	5,000,000	0	5,000,000
平成 19 年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
平成 20 年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
年度			
年度			
総計	15,200,000	3,060,000	18,260,000

研究分野：人口地理学

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：国際結婚、外国人、エスニック・マイノリティ、国際人口移動、多文化共生、仲介業者、現代日本

## 1. 研究開始当初の背景

わが国では、1980年代なかばから外国人の流入が顕著になった。その具体的な理由は多岐にわたるが、人数の点からみておそらく最も多いと推察されるのが、就労を目的とした移動である。とはいえ、これ以外にも、難民・観光・留学・企業内転勤・家族再会・結婚など、多様な目的がある。これらの移動目的は

相互に関連しており、分離することが難しいが、わが国を舞台とした先行研究を俯瞰すると、就労以外の目的に着目した研究は概して乏しく、研究が大きく遅れていた。

## 2. 研究の目的

従来研究が遅れていたが、今後特に重視されるべき研究テーマの一つが、国際結婚であ

る。これは、流入当初の具体的理由が何であれ、外国人流入が続いて外国人が増加する必然的帰結として生じる。日本人と外国人のカップルは、異なったエスニシティを持つ人々の共生という課題を家族単位で追求しており、21世紀の日本が直面している外国人との社会的統合を推し量る貴重な事例とみなすことができる。本研究計画の目的は、国際人口移動の重要な一翼を担いながら、既往の研究が看過しがちであった国際結婚を対象に、地理学的視角からの分析を行うことである。

### 3. 研究の方法

国際結婚に関する既往研究は、社会学分野を中心に、特定の社会的ネットワークを利用し、国際結婚カップルまたは外国人妻へのインタビューあるいはアンケート調査から入手した小規模サンプルを用いたものが多い。しかし、こうした小規模サンプルに基づく研究は、サンプルの取られた地域やネットワークによるバイアスを受けざるを得ず、現代日本に見られる国際結婚カップル全体の中の位置づけが難しい、という大きな問題があった。

そのため、本計画では、従来の方法に縛られない様々な方法を模索した。国際結婚カップルや外国人妻へのインタビューあるいはアンケートといった伝統的な調査方法の他、関係図書の詳細な文献研究、結婚仲介業者の特定と彼らへのインタビュー調査、入国管理局における在留資格の審査官へのインタビュー調査、外国人妻のネットワーク組織の発行する会報に掲載された記事の言説分析、都道府県・生活圏・市町村といった多様な空間的スケールでの国際結婚比率を説明する回帰分析、『人口動態統計』記載のデータの使用を前提とした数理モデルの構築とその経験的妥当性の検討、などである。現代日本に

おける国際結婚は誠に多様であり、こうした多様性を理解するためには、柔軟な研究方法の採用とともに、国際比較に関心を寄せることも重要である。

### 4. 研究成果

従来、国際結婚研究は社会学の分野を中心に成果が蓄積されてきたが、本計画では、主に日本を舞台とした国際結婚に焦点をおいて、地理学的視角が有効なことを確認した。得られた知見は多岐にわたるが、特に以下のような成果が注目される。

(1) わが国の戦後に刊行された国際結婚に関する書籍は多数におよぶが、「戦争花嫁」、「農村の嫁不足」、「比較文化論」などのテーマ別に、書籍の刊行数に消長が見られる。

(2) 国際結婚には明らかな地域差があり、その有力な地理的要因の一つとして、性比の空間的不均衡が考えられる。また、国際結婚の成立には仲介業者が重要な役割を果たしており、わが国では、『人口動態統計』に記載されている件数の少なくとも3分の1が業者婚と推定される。なお、業者の多くは小規模で短命であるうえ、業者間の競争も激しい。

(3) 東海地方4県を対象とした研究から、都道府県やそれより下位のスケールである生活圏における国際結婚比率の空間的変異の説明には、性比、産業地域の特性、外国人数などの変数が重要なことが、判明した。

(4) 日韓の国際結婚カップルの研究から、上方婚と下方婚の件数やその変化は、両国間の経済格差や経済発展の時間差を組み込んだモデルによって説明が可能であることが、明らかになった。

(5) パキスタン人男性と日本人女性のペアでは、夫が仕事のため日本に残る一方、妻と子供がイスラム教の修得のため、夫の出身国で過ごす事例が増えているが、子供の教育が問

題となっていることが、明らかになった。

(6) スペイン在住の国際結婚カップルの日本人妻がつくっている「タンポポの会」の研究を通じ、彼女たちによって構成される組織の会報が、研究対象として重要であり、その分析が有効であることが、明らかになった。

本科研の成果の重要な特色として、海外での学会発表や、日本語のみならず英語やスペイン語で書かれた査読付き論文の刊行が多かった点を指摘できる。国際結婚というテーマから考えると、成果がこうして広く海外に知られることはおおいに重要であり、その意味で、本科研は優れた成果をあげたと自負できるのではないかと考えている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 18 件)

- ① Ishikawa, Y., and Liaw, K.-L. 2009. The 1995-2000 interprefectural migration of foreign residents of Japan: Salient features and multivariate explanation. *Population, Space and Place*, forthcoming. 査読有
- ② Ishikawa, Y. 2009. Introduction to the special issue "Changing geographies of human mobility on urban and national scales". *Geographical Review of Japan Series B* (web journal), 81(1): 1-3. 査読有  
[http://www.jstage.jst.go.jp/article/geogrevjapanb/81/1/1/\\_pdf/-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/article/geogrevjapanb/81/1/1/_pdf/-char/ja/)
- ③ Liaw, K.-L., and Ishikawa, Y. 2008. Destination choice of the 1995-2000 immigrants to Japan: Salient features and multivariate explanation, *Environment and Planning A* 40: 806-830.

査読有

- ④ Ishikawa, Y. 2008. Progress in Japanese population geography: Retrospect and prospect. *Geographical Review of Japan* 81: 247-261. 査読有
- ⑤ 石川義孝 2007. 現代日本における性比不均衡と国際結婚. 紀平英作編『グローバル時代の人文学—対話と寛容の知を求めて— 共生への問い』127-145. 京都大学学術出版会. 査読無
- ⑥ 石川義孝 2006. 国際地理学連合のブリスベン地域会議の報告. 人口学研究 39: 73-74. 査読有
- ⑦ 落合恵美子 2007. グローバル化する家族—台湾の外国人家事労働者と外国人妻—. 紀平英作編『グローバル化時代の人文学—対話と寛容の知を求めて— 共生への問い』93-126. 京都大学学術出版会. 査読無
- ⑧ 矢ヶ崎典隆 2008. 南北アメリカ研究と文化地理学—3つの経済文化地域の設定と地域変化に関する試論—. 地理空間 1: 1-31. 査読有
- ⑨ 矢ヶ崎典隆 2008. エスニック集団の適応戦略, アメリカ合衆国のエスニック社会. 山下清海編『エスニック・ワールド—世界と日本のエスニック社会—』20-27, 80-87. 明石書店. 査読無
- ⑩ Yagasaki, N. 2007. Immigration to the United States. in *Global perspectives on the United States: Issues and ideas shaping international relations*, eds. D. Levinson and K. Christensen, 167-170. Great Barrington, USA: Berkshire Publishing Group. 査読無
- ⑪ 西原 純 2009. 広域行政の進展と定住外国人の増加と共生, 第三節「都市化の進展と住民生活の変貌」, 第6章「竜洋町」

の時代, 竜洋町史 通史編 第6章.  
磐田市 (印刷中). 査読無

- ⑫ Takeshita, S. 2009. The passing CCKs in Japan: Analysis on families of cross-border marriages between Japanese and Brazilian. *Journal of Comparative Family Studies*, forthcoming. 査読有
- ⑬ Takeshita, S. 2008. Muslim families comprising Pakistani fathers and Japanese mothers: Focusing on the educational problems of their children. *HAWWA: Journal of Women of the Middle East and the Islamic World* 6: 202-224. 査読有
- ⑭ 竹下修子 2007. ムスリム家族における国境を越えた家族形成—教育戦略に対する社会関係資本の影響を中心にして—. *家族社会学研究* 18(2): 82-91. 査読有
- ⑮ Avila Tàpies, R. 2008. Inmigración japonesa e interculturalidad en España: el caso de la “Sociedad Tanpopo”. *Boletín de la Real Sociedad Geográfica*, CXLIV: 235-248. 査読有
- ⑯ Avila Tàpies, R. 2008. Building friendship networks and intercultural spaces: the case of Japanese women in Spain. *Migracijske i etničke teme (Migration and Ethnic Themes)*, 24 (4): 341-352. 査読有
- ⑰ Avila Tàpies, R. 2007. El repte demogràfic del Japó: el problema demogràfic i les seves implicacions socioeconòmiques. *Japó, el sol renaixent. dCIDOB*, Fundació CIDOB, 101: 29-33. 査読無
- ⑱ Avila Tàpies, R. 2007. “Tanpopo”:

Personal international narratives of Japanese women living in Spain. 甲南大學紀要文学編歴史文化学科特集 154: 53-64. 査読無

[学会発表] (計15件)

- ① Ishikawa, Y. 2008. The role of matchmaking agencies for international marriage in contemporary Japan: a survey study. Presented at Academia Sinica, Taipei, Taiwan, on November 24.
- ② 石川義孝 2008. 仲介業者からみた現代日本の国際結婚. 日本地理学会秋期学術大会, エスニック地理学研究グループ, 岩手大学, 10月5日.
- ③ Ishikawa, Y. 2008. Role of matchmaking agencies for international marriage in contemporary Japan. Presented at IGU Commission on Global Change and Human Mobility in the 31<sup>st</sup> International Geographical Congress at Le Kram Congress and Exhibition Centre, Tunis, Tunisia, on August 15.
- ④ 石川義孝 2008. 仲介業者からみた現代日本の国際結婚. 日文研共同研究「アジアにおける家族とジェンダーの変容—近代化とグローバル化の時代—to」国際日本文化研センター, 7月26日.
- ⑤ Ishikawa, Y., and Liaw, K.-L. 2007. The 1995-2000 interprefectural migration of foreign residents of Japan: Salient features and multivariate explanation. Presented at IGU Commission on Global Change and Human Mobility in the 4<sup>th</sup> International Conference on Population Geographies at the Chinese University of Hong Kong, Hong Kong,

- China, on July 12.
- ⑥ Ishikawa, Y., and Liaw, K.-L. 2006. Internal migration of foreigners in Japan based on the micro data samples of the 2000 census. Presented at IGU Commission on Global Change and Human Mobility in IGU Regional Conference at Queensland University of Technology, Brisbane, Australia, on July 4.
- ⑦ Ochiai, E., Ishikawa, Y., and Liaw, K.-L. 2006. Feminization of migration and cross-border marriages in Japan. Presented at the International Conference on Cross-border Marriages in Asia and Europe at Academia Sinica, Taipei, Taiwan, on September 20.
- ⑧ Inoue, T. 2008. Hypergamy and hypogamy in international marriage: A case of recent marriage between Japanese and Korean. Presented at Academia Sinica, Taipei, Taiwan, on December 24.
- ⑨ 井上 孝 2008. 国際結婚における上方婚と下方婚—近年の日韓間を事例として—. 人文地理学会大会, 筑波大学, 11月9日.
- ⑩ 竹下修子 2008. 国際結婚家族と子どもの教育—夫パキスタン人・妻日本人の場合—. 在日外国人教育問題研究会, 愛知学院大学, 11月22日.
- ⑪ Takeshita, S. 2006. Transnational families among Muslims: The effect of social capital on educational strategies. Presented at the International Conference on Cross-border Marriages in Asia and Europe at Academia Sinica, Taipei, Taiwan, on September 20.
- ⑫ 竹下修子 2006. ムスリム家族における国境を越えた家族形成—教育戦略に対す

る社会関係資本の影響を中心にして—. 第16回日本家族社会学会大会(国際セッション), 上智大学, 9月9日.

- ⑬ Avila Tàpies, R. 2008. Building friendship networks and intercultural spaces: the case of Japanese women in Spain. Presented at the IGU Commission on Global Change and Human Mobility in the 31<sup>st</sup> International Geographical Congress at Le Kram Congress and Exhibition Centre, Tunis, Tunisia, on August 15.
- ⑭ アビラ・タピエス, ロサリア 2008. スペインにおける日西国際結婚と異文化交流の実践. 日本地理学会春期学術大会, 国際経済経営地理学研究グループ, 獨協大学, 3月30日.
- ⑮ Avila Tàpies, R. 2007. "Tanpopo": Personal international narratives of Japanese women living in Spain. Presented at the IGU Commission on Population and Vulnerability in the Fourth International Conference on Population Geographies at the Chinese University of Hong Kong, Hong Kong, China, on July 12.

[図書] (計1件)

石川義孝編 2007. 『人口減少と地域—地理学的アプローチ—』京都大学学術出版会, 347 ページ.

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)  
なし

○取得状況 (計0件)  
なし

[その他]  
なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

石川 義孝 (ISHIKAWA YOSHITAKA)  
京都大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：30115787

### (2) 研究分担者

落合 恵美子 (OCHIAI EMIKO)  
京都大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：90194571

矢ヶ崎 典隆 (YAGASAKI NORITAKA)  
東京学芸大学・教育学部・教授  
研究者番号：30166475

西原 純 (NISHIHARA JUN)  
静岡大学・情報学部・教授  
研究者番号：30136626

井上 孝 (INOUE TAKASHI)  
青山学院大学・経済学部・教授  
研究者番号：10211749

竹下 修子 (TAKESHITA SHUKO)  
中京女子大学・人文学部・教授  
研究者番号：60454360

### (3) 研究協力者

ロサリア アビラ-タピエス (ROSALIA  
AVILA-TAPIES)  
甲南大学・文学部・非常勤講師